

箱根火山と私たちの暮らし（2）

昨年の12月末に、知り合いと仙石原の宿泊施設で忘年会をしました。残念ながら自然災害の影響で温泉の供給ができず沸かし湯だということでしたが、ヒメシャラやサザンカなど箱根を代表する樹木の植え込みを眺めながら露天風呂につかって、大いにリフレッシュしました。

さて、箱根の玄関口にあたる入生田というところに、箱根火山の研究のメッカである生命の星・地球博物館と温泉地学研究所があります。温泉地学研究所は、純粋に研究機関なので行ったことのある人は少ないと思いますが、生命の星・地球博物館は遠足や社会見学などで多くの人が行った経験があると思います。

日本には、目立たないけどすごい博物館とか美術館がたくさんあります。一例をあげると、島根県に足立美術館というのがあります。横山大観などの日本画の所蔵で有名で、素晴らしい日本庭園のある美術館です。個人のつくった美術館であるとは思えないほどのものです。生命の星・地球博物館も、地学標本の収集では日本有数の博物館で、世界中から地球の歴史を目の当たりにできる岩石などが集められています。

この博物館は研究機能も備えていて、箱根火山の研究も進められています。前回のNO.14で箱根火山の成り立ちについて、久野久さんの学説を紹介しましたが、最近になって、生命の星・地球博物館の研究者によって、新たな火山形成のモデルが示されました（裏面：「箱根火山 いま証される噴火の歴史」（神奈川県立生命の星・地球博物館、2008））。

あまり詳しいところまで書くとマニアックになってわかりにくくなりますから、その概要だけを説明します。箱根の最初の火山活動でできた火山は、富士山のような一つの大きな山ではなくて、まとまったいくつかの火山群だったようです。金時山や明神ヶ岳などです①。その火山群が大きな噴火で破壊され②、さらに中央部が陥没してカルデラができたあと、次に小規模な火山噴火で中央部になだらかな火山ができました。これを前期中央火口丘と呼んでいます。屏風山などです③。その後再度大規模な火山活動が起き④、現在の箱根の主峰である二子山や駒ヶ岳、神山などの火山ができました⑤。これらを後期中央火口丘と呼んでいます。この時の火山活動はすさまじく、関東平野を中心に大量の火山灰を降らすとともに、山裾を一気に岩石を含んだ噴煙が下る大規模な火砕流が何度も発生し、この足柄高校がある沼田丘陵もそのときに金時山を下ってきた大火砕流でつくられました。大雄山線から西側にみえる山裾の台地は、どれもこの時期の火砕流で火山堆積物が積もってできたものです。

ところで、みなさんは今年新しく、仙石原と南足柄を結ぶ県道が開通する予定であることを知っていますか。この道路ができると、箱根から南足柄を経て、東名高速道路の大井松田インターチェンジに、まっすぐ接続することになります。箱根の道路渋滞が

少しでも緩和され、また南足柄周辺の賑わいにつながると思っています。

大涌谷の火山活動は、警戒レベル1になったとはいえ今だ沈静化せず、箱根登山鉄道の全面復旧は秋以降だと言われています。箱根のみなさんにはまだしばらく試練が続きますが、周辺の地域みんなで助け合いながら、この自然遺産・ジオパークと共存していく道を探っていくことが大切だと思います。

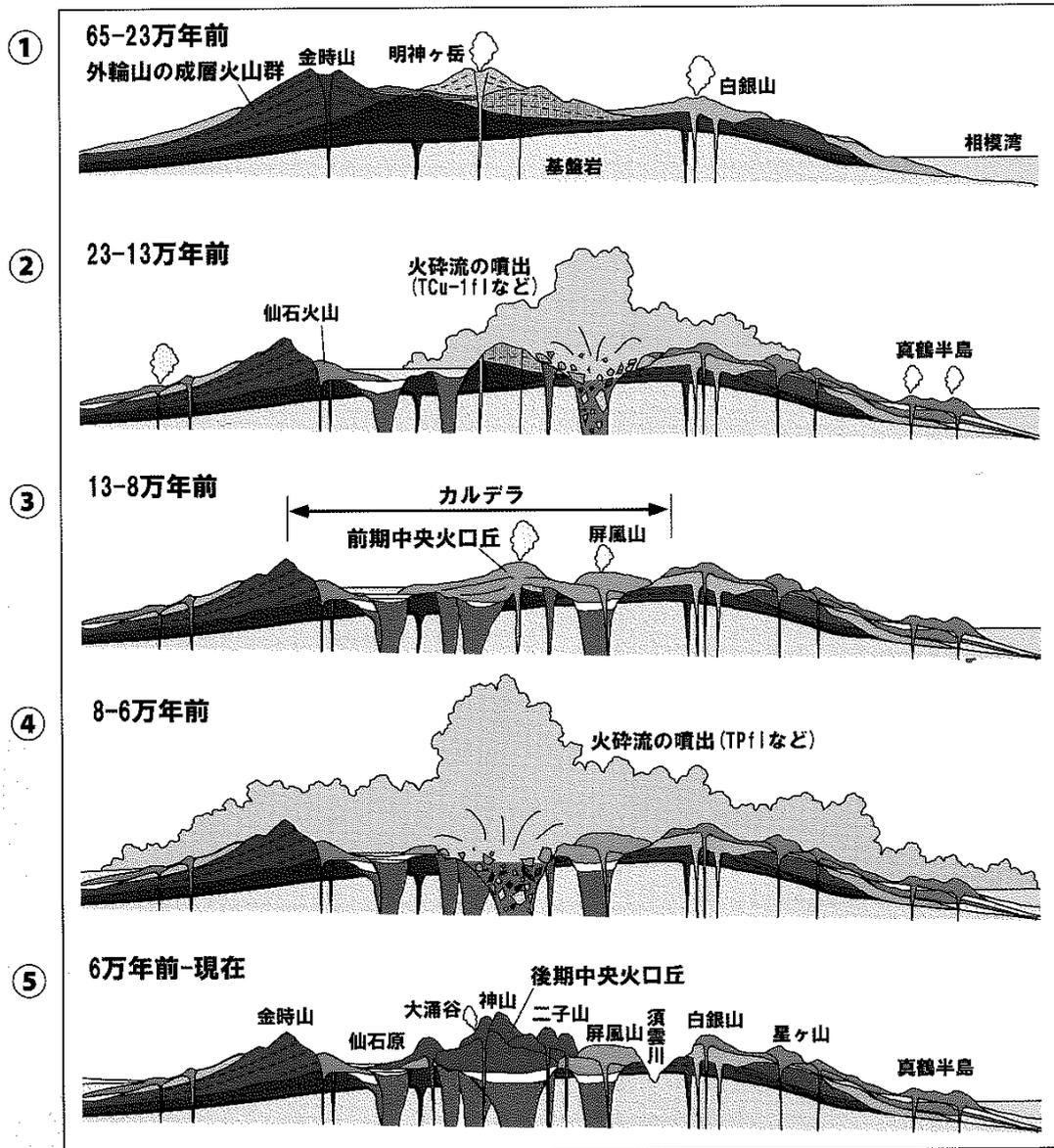


図 2-13-1. 箱根火山の新しい形成モデル (日本地質学会, 2007 を改変) .

M. Nagai & M. Takahashi